

【寄稿】

大阪大学コミュニケーションデザイン・センターについて

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター長
大阪大学大学院文学研究科教授
金水 敏

1. 私について

私は、1983～1987年に神戸大学教養部に、また1990～2000年に神戸大学文学部に在籍しておりました。その間、蛭名邦禎さん(現・神戸大学発達科学部教授)とも懇意にしておりました関係で、今回の執筆のご依頼をうけました。なお、文学部時代にはネットワーク推進の全学委員を務め、94年にネットワーク・ユーザ・アンケートに携わったこともあります。その集計結果の報告を『MAGE』17-2に執筆しておりますので、『MAGE』に原稿を提供するのはこれで2回目になります。今回は、蛭名さんからのお誘いにより、ネットワークとは直接関係ありませんが、私が現在センター長を務めます大阪大学コミュニケーションデザイン・センターについてご紹介をさせていただきます。

2. 大阪大学コミュニケーションデザイン・センター (CSCD) について

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター(Center for the Study of Communication Design, 以下CSCD)は、国立大学法人化の2年目である平成17年に、当時の宮原秀夫総長のイニシアチブのもとで設立されました。総長が掲げた教育モットー「教養／デザイン力／国際性」のうち、学生の“デザイン力”を高めることを目的としています。ここでいうデザイン力とは、「自由なイマジネーションと横断的なネットワーク構成力」のこととされています(『大阪大学グラウンドプラン』より)。また“コミュニケーションデザイン”とは、「専門家の知識を持つ者と持たない者、利害や立場の異なる人びと、そのあいだをつなぐコミュニケーション回路を構想・設計すること」(<http://cscd.osaka-u.ac.jp/about/>)と捉えられています。具体的な活動として、CSCDは大学院生に対するコミュニケーション教育を提供しながら、大学と社会をつないでいくアウトリーチ活動(“社会学連携活動”と呼んでいます)を展開しています。CSCDの組織は現在、臨床&フィールド・コミュニケーションデザイン部門、安全コミュニケーションデザイン部門、アート&テクノロジー・コミュニケーションデザイン部門の3部門からなっていますが、部門同士の活動は緩やかにつながっています(部門構成は平成22年度より変更の予定)。人員は、平成21年度現在で専任教員9名、学内派遣6名、特任教員11名、および多数の学内兼任教員からなっています。

3. CSCD 科目

CSCDには学生は所属していませんが、CSCD科目を全学に提供しています。CSCD科目は主に大学院生を対象としていますが、科目によっては学部の3年生から履修することができます。平成21年度では49科目におよび、内容としては、科学技術コミュニケーション、臨床コミュニケーション、アートプロデュース、アートアーカイブズ、科学倫理、メディア技法と表現リテラシー(ITリテラシーを含みます)、減災コミュニケーション、ま

ちづくりデザイン、観光、演劇的ワークショップ等多岐にわたります。授業の進め方として、座学のみものは少なく、グループディスカッションや学生によるプレゼンテーション、また後に述べる社会学連携事業におけるインターンシップ等を含むものがほとんどです。すなわち、授業の中に生々しいコミュニケーション(あるいは、むしろディスコミュニケーション)を体験させる仕掛けを多分に含んでいるということです。

また CSCD 科目の特徴として、文理融合という点が挙げられます。従来の大学の科目では、異なる部局、特に文系・理系の学生が一つの授業の中で議論をするということは滅多にありませんが、CSCD 科目では日常茶飯事です。例えば、原子力の利用に関してグループディスカッションをした場合、工学系の学生だけ集めるとたちまち議論が収束するのに対し、文系の学生が入るとまったく収束しないというような状況を目の当たりにして、学生が強い印象を受けるといったことがよくあります。

大阪大学では、「高度副プログラム」という制度を設け、学際・融合的な一連の授業群を履修すると修了証を与えるとしています。CSCD でも「コミュニケーションデザイン」というプログラムを設定していますが、アプライする学生の部局の多彩さという点では群を抜いています。

4. 社会学連携

大学が行う社会貢献事業のうち、産学連携ではなく、市民一人一人と直接つながる事業を大阪大学では社会学連携と呼んでいます。専門家と非専門家をつなぐという点で、CSCD では社会学連携をセンターの事業を授業の提供とならんで大きな柱としてきました。CSCD の社会学連携はやはり通常の講義や講演ではなく、対話的コミュニケーションを特徴としています。例えば心斎橋と銀座のアップルストアで実施している「知デリ」(知術デリバリー)では、大阪大学の研究者とアーティストの組み合わせでトークイベントを行います。トークをする人、聴衆それぞれに新しい発見や感動が生まれることがしばしばです。

また豊中キャンパス内には「オレンジショップ」と呼ばれるスペースがあり、ここで種々の“カフェ”プログラムを提供しています。カフェというのは、文字通りコーヒーやお茶を手にして、専門家と非専門家が区別なく一つのテーマについて語り合うイベントです。さらに、京阪電鉄・中之島線なにわ橋駅コンコースに作られた「アートエリア B1」では、CSCD プロデュースによる「ラボカフェ」が日常的に行われています。哲学カフェ、鉄カフェ(鉄道ファンのカフェ)、サイエンスカフェ、マンガカフェなど多彩なプログラムが主に平日の夜に開催されており、それを目指して集まるだけでなく、偶然通りかかった歩行者がふらりと参加されることもしばしばです。京阪電鉄は、「アートエリア B1」の運営により、メセナアワード 2009 の文化庁長官賞を受けました。

先に触れたように、CSCD ではこれら社会学連携にも学生を積極的に巻き込んでおり、例えば知デリの一部プログラムは、企画から準備・運営に至るまですべて学生グループに任せて進めています。学生は、こういった活動で自分の専門外の研究者やアーティスト、会場を提供して下さる社会人の方とふれあい、また聴衆の方々と対面することによって、実際に社会経験を積んでいくことになります。これも大きな教育効果の一つです。

なお、COP15 に併せて平成 21 年 9 月に世界で実施された World Wide Views の日本版の実施にあたって、CSCD は大きな役割を果たしました。これは、100 人程度の一般市民を 1 箇所に集め、環境問題について 8 時間にわたりグループディスカッションを行い、政策提言をまとめるというプログラムで、議論の結果はオンラインにより直ちに世界で共有されるようになっていました。この取り組みを成功の内に終えられたのも、CSCD が対話型プログラムの経験を日本で一番積み上げてきたことの実績が大きく貢献したと言えるでしょう。

なお、大阪大学では、平成 20 年より「21 世紀懐徳堂」という組織を立ち上げ、CSCD で培われた社会学連携

の経験を全学に広げていこうとしています。学生への教育、高度な研究や病院による医療といった従来の活動に加えて、社会学連携がこれからの大学の重要な責務の一つとなると考えているからです。

5. CSCD にとっての問題点とこれから

CSCD 科目がより機能を発揮させていくための問題点は、「受けたい学生が受けられるようにする」とこと、「受けたくない学生にも受けさせる」とことの困難さと捉えることができるでしょう。前者は、一つには各部局のカリキュラムの過密さによります。全学に、CSCD 科目を置く特定の曜日・時限には必修の授業を置かないように申し入れはしていますが、それにしても、所属する部局の授業の合間を縫って CSCD 科目を受講することは、学生にとってなかなかの負担です。また、三つのキャンパスの地理的要因も絡みますが、受講希望の多い科目については、複数のキャンパスで実施するように工夫もしています。それ以上に問題なのは、教授による学生の囲い込みで、自分の研究室での学生の活動を快く思わない教授は決して少なくないようです。学生の学びの自由度を積極的に認めていく風土を全学的に育てて行く努力が必要なようです。

さて後者ですが、そもそも CSCD 科目を選択して集まってくる学生は最初から意識が高く、コミュニケーション能力ももともとかなり高いのが一般です。むしろ、そういった学生にとって CSCD 科目は一層自己の能力を引き出してくれるでしょうが、コミュニケーション能力の向上が必要なのは、むしろ表面的には CSCD 科目に関心を示さない“サイレント・マジョリティ”であると言えます。だからと言って、例えば CSCD 科目の一部を必修ないしそれに近い形で提供することを考えた場合、まず、スタッフの不足という点が問題になります。撰述したとおり、CSCD 科目はグループディスカッションなど、きめの細かいワークショップ型授業が多いので、そもそもマスプロ教育の対極にあり、手がかかるのです。必修・準必修化によって受講者が増えると、たちまち授業の質が低下しますし、そもそも授業の質は学生のモチベーションによる部分が大きいのも事実です。これは大きなジレンマですが、実際にこういった現象は起こりつつあります。学生のモチベーションの程度に合わせて、分離的・段階的な授業の組み立てを考えていかなければならないでしょう。直ちに効く特効薬のような対処法は存在しません。

以上、CSCD の試みは大きな成果を上げつつある一方で、一層の飛躍のために、さらなる工夫と努力が必要です。平成 22 年度から、人員も一部改まって中期目標・中期計画第 2 期に入ります。学外との交流も進めていきたいと考えていますので、ご興味がおありの神戸大学の皆様、ぜひご連絡をください。お待ちしております。

※大阪大学コミュニケーションデザイン・センター URL: <http://cscd.osaka-u.ac.jp/>

(以上)